

# RSウイルス感染症

## どんな病気？

RSウイルスは良く赤ちゃんの細気管支炎や肺炎の原因となるウイルスで2~3歳までの子どもの大部分がかかってしまう感染症です。晩秋から冬、早春と流行が続きます。

鼻水から始まり38~39℃の高熱と咳が続き、初めてかかった赤ちゃんの場合は3分の1が細気管支炎、肺炎をおこし、中耳炎を合併することがあります。大部分は普通のカゼ、あるいはひどいカゼのような症状で7~12日程度で回復に向かいます。1歳未満の赤ちゃんやとりわけ、妊娠35週以前に誕生した早産の赤ちゃんは、重症化して、まれに死亡することもありますので注意が必要です。ウイルスが気道に入ると、タンが増え肺が未熟な赤ちゃんはタンで気管が詰まり、呼吸が苦しくなり肺炎や気管支炎を起こしやすいからです。又、高齢者や心臓や肺に病気を持っている人、免疫力の弱っている人も重症になることがありますので注意が必要です。潜伏期間（感染して症状があらわれるまでの期間）は5日程度です。この期間と症状が消えて1~3週間は感染力があります。又、一度かかっても再度感染する病気です。



## 予防するには・・・

感染者のセキが飛び散ってそれを吸い込んだり、オモチャなどに付着して触ったりして眼、のど、鼻の粘膜に付着して感染します。手がウイルスを粘膜に運んでいる場合もあるので手を良く洗うことは予防の第一です。調理や食事の前、鼻をかんだ後などは水と石鹸で手を良く洗いましょう。特に6ヵ月以下の赤ちゃんの場合、流行するこれからの時期、カゼをひいている人から隔離してあげましょう。又、タバコの煙を吸うことはこの感染症の危険因子の一つと考えられていますので特に注意してください。



## 重症化予防薬とは？

感染しても重症化を予防する目的で、早産で生まれた赤ちゃんらを対象に、遺伝子組み換え技術により開発されたシナジス（一般名：パリビズマブ）という薬を注射する方法があります。流行期に月一回のペースで注射します。ウイルスが気道の細胞に侵入して増殖するのをおさえるためです。

